

1 4 年間の実績

(1) 人事・組織運営

・行政的な制約（人事、予算等）からの解放→病院長を中心とした戦略的な運営、迅速な経営判断が可能に

① 医療スタッフの充実

医療機能強化などのため職員を積極的に採用

(単位：人)

区分	H22. 4. 1	H23. 4. 1	H24. 4. 1	H25. 4. 1	H26. 4. 1	対 22 比
医師	160 (14)	174 (15)	166 (15)	170 (16)	163 (17)	3 (3)
看護師	710	715	770	798	846 (1)	136 (1)
医療技術職員※	204 (72)	226 (61)	244 (34)	251 (22)	272 (13)	68 (▲59)
事務職員	77 (63)	108 (63)	118 (49)	121 (36)	122 (29)	45 (▲34)
計	1,151 (149)	1,223 (139)	1,298 (98)	1,340 (74)	1,403 (60)	252 (▲89)

() 内は、県派遣職員数 ※ 理学療法士、作業療法士、薬剤師等の医療技術職

② 病院の実情に即した人事・給与・評価制度の構築→医療機関にふさわしい人事・処遇の実現

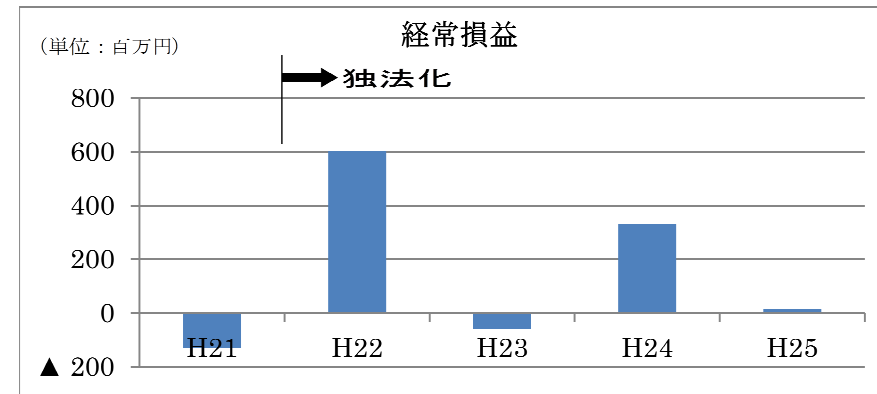
(2) 医療サービスの向上

- 【機構全体】
 - ・本部研修センターの設置と機構独自の充実したカリキュラムの構築
 - ・地域医療を担う看護師育成のため信州木曾看護専門学校の開校
- 【須坂病院】
 - ・内視鏡センター、ピロリ菌・肝臓・メタボ等各種専門外来の開始
 - ・7対1看護基準の届け出による安全で質の高い医療の提供
- 【こころの医療センター駒ヶ根】
 - ・本館棟、デイケア棟など全館改築し、平成 24 年 2 月フルオープン
 - ・入院機能の充実（スーパー救急、依存症、児童精神）と早期退院のためのデイケアの充実
- 【阿南病院】
 - ・屋上ヘリポートを備えた免震構造 4 階建ての新本館棟が平成 25 年 3 月オープン
 - ・超高齢地域を支える在宅医療（訪問診療・看護・リハビリ）への対応
- 【木曾病院】
 - ・診療体制の充実（がん、救急、訪問診療、訪問リハ等）
 - ・地域医療を守るため全科当直体制の維持
- 【こども病院】
 - ・診療体制の充実（発達障害専門外来、生命科学研究センター、口唇口蓋裂センターの開設等）
 - ・プレホスピタル、ポストホスピタルへの取組

(3) 財務の改善

・経常損益の状況

独法化後 4 年間の累計で、中期計画を上回る経常損益を確保（H25 年度末累計実績：889 百万円）
（中期計画 H25 までの累計：111 百万円）



【参考】運営費負担金の推移

年度	H21	H22	H23	H24	H25
運営費負担金	5,673	5,280	5,100	5,100	5,100

2 4 年間の評価のまとめ

平成 25 年度までの 4 年間で、病院機構は、職員の意識改革を進めるとともに、公的ニーズが高まる新たな医療課題への積極的なチャレンジや信州木曾看護専門学校の開校など人材育成の取組、財務内容の改善など、地方独立行政法人としての役割、基盤を確立しつつある。

今後更に進行する少子高齢化を見据え、国において医療サービス提供体制の改革が進む中、病院の方向性を十分に確認・検討し、地域の医療ニーズに応える診療体制の充実を図り、引き続き業務改善の努力を続けることで、中期計画を確実に達成できるものと思われる。

3 今後の課題

- ① 医療制度改革、人口減少・高齢化等への対応
 - ・医療・介護サービスの提供体制改革への対応
 - ・人口減少・高齢化に伴う患者数の減少への対応
- ② 医師の確保
 - ・大学医局等との連携強化
- ③ 人材育成による県内医療への貢献
 - ・信州型総合医の養成
 - ・信州木曾看護専門学校の運営
- ④ 病院機能のさらなる向上
 - ・地域のニーズに応えた診療機能の充実
 - ・高度専門医療の充実
- ⑤ 病院経営を担う人材の育成と事務部門のプロパー化の推進